



今回の進路だより第2号では、高等部の卒業生の様子、中学部のチャレンジ体験と進路情報連絡会について報告します。本校の進路指導について知っていただき、お子さんの将来を考える参考にしてください。



Q 卒業後、社会に出るまでに家庭で身に付けておくといふことを教えてほしい。

A 学校での進路決定は通過点です。将来のことを考え、生活の中で自分でできることを増やしておくことが大切だと思います。例えば、食事、排せつ、着替えなどの身辺自立。その他、掃除、洗濯、買い物などの家事ができること仕事や生活の幅が広がります。また、将来一人暮らしを考えるなら、健康面や金銭面の自己管理ができることによります。完璧でなくても、親が手伝っていることを少しずつ減らし、お子さんが一人でできるようにしていけるとよいと思います。

Q 福祉サービス事業所では、どれくらいの支援をしてくれますか？

A 事業所によって、できること・できないことは違うので、お子さんの様子を伝え、事業所ごとに確認することが確実です。生活介護やB型といったサービスによって、そもそも支援の量は違いますが、事業所からは「他の利用者さんの生活を崩さない範囲での支援をします」という話をよく言われます。そう考えると、その事業所の中で、周りの方と一緒に活動や仕事ができるようになっておくことが大切かなと思います。

Q 就労アセスメントの制度が変わると聞きました。 ※4月時点の質問なので、答えは現在の状況に更新してあります。

A 『就労選択支援』のことですね。2025年10月からスタートしています。

これまでの『就労アセスメント』も『就労選択支援』も「現在のお子さんの働く力を把握し、就労に関する適性やニーズを評価するもの」ということは基本的には変わりません。B型を利用するために、これらのアセスメントが必要ということも同じです。大きく変わったことを簡単に説明すると”アセスメント期間は2週間を想定。その後、関係者で集まりケース会議を行う”というところです。この期間が合わせて1か月くらいかかる想定です。

現在、校区の市町で『就労選択支援』を行える事業所は豊田市に3か所あります。みよし市、東郷町、日進市にはまだありません。ただ、準備を進めている市町もあるので、その都度状況をお伝えしていきたいと思います。

一つの就労選択支援事業所でひと月に受け入れできる(アセスメントできる)人数は、今のところどの事業所も3人程度を想定しています。“予約がいっぱいでできない”“居住地に就労選択支援事業所がない”といった場合は、これまでの就労アセスメントを行ってよいことになっています。

Q 企業就職(一般就労)に向けてやるべきこと等、詳しく知りたいです。

A 企業は福祉施設ではないため、支援があることを前提にせず、お子さんの自立度を高めておくことよいと思います。特にまわりで働く方たちは障害のことを知らない方も多いため、働くために必要なコミュニケーション力が重要な職場が多いです。実習でも、仕事はできても相談・質問がうまくできず不合格となる例があります。また業種ごとに求められる力は異なります。一例ですが、製造業は機械操作や検品などで品質管理が厳しく、食品製造では調理器具を使った細かな作業があります。飲食業は長時間動き続ける体力が必要です。小売業は商品の補充・清掃に加え簡単な接客も求められます。清掃業は会社ごとの細かい手順を守り、チームで一日かけて清掃します。可否を判断するのは企業の現場担当者であり、実習では本人の働く力が、その会社の水準に達しているかが評価の対象になります。

Q どのような方向で就職したいのか、就職できるのか、何が合っているのか本人も分からず、どのように考えて、どのように探していけばよいか全く分からず、ただただ不安です。

A 企業就職の場合、学校の推薦が必要です。推薦を受けることができた場合、本人の得意なことや苦手なこと、特性等を考慮しながら、その年に出ている求人の中から本人に合った仕事を探します。その後、本人に仕事内容などを伝えて意思確認し、希望すれば実習へという流れとなります。ただし仕事の業種はその年に求人が出ているものになるので、必ずしも望みの業種があるとは限らないことをご了承ください。ある程度、いろいろな仕事に対応できるよう、お子さんが一人でできることを増やしておくことによります。

中学部 3年生チャレンジ体験

1月22日(木)に、豊田市にある「ハートランド豊田の杜(就労継続支援 B 型)」「ハートピア豊田の杜(生活介護)」で施設の見学と作業の体験をさせていただきました。ハートランドでは、箸の袋詰めや車部品の組立をさせていただきました。ハートピアでは、利用者と一緒に音楽活動やダンスを体験させていただきました。生徒の「お仕事は何時間しますか?」という質問に対し、「一日に4時間程度です」と施設職員から回答があり、学校の授業より長時間働かなくてはならないことに驚いた様子でした。その後、本校高等部を卒業した先輩が働くカフェで昼食をとり、先輩が給仕をする様子を見て、「テキパキしていてすごい」と感動している生徒もいました。将来の自分像について考えるきっかけになったようです。



割り箸の袋詰め



ダンス



カフェでの昼食

第2回中学部進路情報連絡会

1月29日(木)に、中学部の保護者を対象に、本校高等部卒業生の保護者から進路決定までの流れや卒業後の生活などの経験談をお話いただきました。先輩のお母さんからのアドバイスの一部を紹介します。

質問 事業所の見学はいつ始めましたか?また、見学するときのポイントは?

→見学は中学部1年生の夏休みから始めました。

見学するときのポイントは、①支援員と利用者の接し方②曜日ごとのタイムスケジュール③どのような利用者がいるか④昼食について⑤自宅までの送迎があるかを確認するようになっていました。

質問 現在、利用している事業所に決めた理由は?

→私の子どもは手先が器用なため、軽作業ができる事業所を探しました。しかし、一生懸命に頑張りすぎたため、休憩時間が明確になっているところを選びました。あとは、支援員の対応が子どもに合っていると感じたこと、利用者の数が少なかったことも決め手になりました。

質問 中学部のうちにやっておくとよいことは?

→①事業所の見学にできるだけ参加する②相談支援員から情報を収集する③体力づくり④あいさつをする習慣をつける⑤歯医者に慣れておくことは、やっておいてよかったです。



WAMNET 事業所検索



～WAMNET (ワムネット)～

居住地の福祉事業所を条件ごとに検索できるサービスです。

情報が古い場合もあるため、あくまで事業所探しの参考としてご活用ください。

※進路情報の収集は早めに始めると余裕がもてます。

